



⚠ ラインに関するご注意

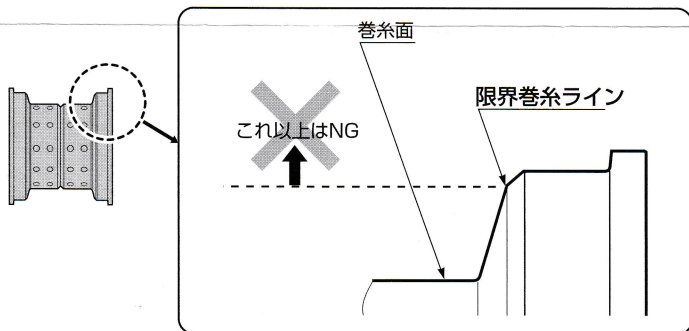
・以下のリスクにご注意下さい！

- 必要以上の高いラインテンションで巻くと、スプールが変形する場合がございます。ラインテンションを掛けすぎないようにご注意ください。推奨するラインテンションは300g以下です。また、根掛かりを外す際、リールでの強引な巻取り、スプールを押さえたまま引張ってラインを切る動作などはおやめください。
- PE1号以上、ナイロン・フロロ16lb以上のライン、または10g以上のルアーのご使用は、このリールの適正使用条件を強度的に大きく超えますのでおやめください。
- 6lb未満のナイロンラインやフロロカーボンライン、PE0.6号未満を使用する場合、トラブルが発生しやすくなります。フレームとスプールの間（隙間）にラインが噛み込む症状や、巻糸面での上糸と下糸のライン同士での食い込み症状などが発生しやすくなります。ラインが噛み込むケースはブレーキ力が弱く、ラインがフケた状態で発生しますのでマグダイヤルを上げて糸フケを抑えてご使用するか、ラインを巻き過ぎないようにしてください。また、ラインが食い込むケースは、そのままキャストするとルアーの高切れが起こりやすくなります。食い込みは、必ず直してから次のキャスト動作に移ってください。

1 巻糸量・巻糸時ハンドル巻き数の目安

FLUORO/NYLON	6lb (0.205mm)	40m	62回転
PE/BRAID	#0.6 (0.06mm)	40m	66回転

※巻糸量は目安であり、メーカー・アイテム・テンションにより異なります。
※いずれのラインも40m以上巻かずにご使用されることを推奨します。



●巻糸量についての注意

- 限界巻糸ラインを超えないように巻いてご使用ください。目安として、**図の限界巻糸ラインを上限**としてください。それ以上の巻糸量を巻いた場合、段差部分にラインが乗り上げた巻糸糸状態になる恐れがあります。最悪の場合、フレームとスプールの間（隙間）にラインが噛み込んだりバックラッシュが起こりやすくなります。おやめください。

●アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万が一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際はご購入の販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター（無料） 携帯電話からもご利用できます

TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00～17:00
（土・日・祝祭日は除く）

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます

www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16

2 ブレーキ設定方法

- マグネットブレーキの進化により全てのルアーをマグダイヤルのみで制御することが可能です。
“スプールガタゼロ”の調整には“ゼロアジャスター”を使用します。
※詳細は、別紙の取扱説明書の「●ブレーキ設定方法」を参照ください。

3 ブレーキ調整時の注意

本製品はPEラインを、よりトラブルレスにキャストにすることができるよう開発されており、推奨巻糸量でのブレーキセッティングを施しております。

※組み合わせるロッドによってマグダイヤルの目盛りは変わります。

マグダイヤルセッティング例	バックラッシュゾーン	快適ゾーン	セーフティーゾーン
推奨巻糸量時 (PE0.6号-40m)	0~5 (サミング必須)	6~13	14~20

- ルアーの飛び出し方向とリリースポイントが合ったら、マグダイヤルを1目盛りずつ落としていきます。
※超軽量スプールを採用しているため、マグダイヤル1目盛りの差が非常に大きく作用します。必ずマグダイヤルは1目盛りずつ調整するようにしてください。
- キャスト後半に軽く糸フケが出る程度までブレーキ力を下げたところから、1~2目盛り戻した状態でセッティング完了です。
※比重の大きいフロロカーボンラインをご使用の場合は、マグダイヤル目盛りを下げ過ぎるとバックラッシュが発生しやすくなりますので、PEラインのご使用よりもマグダイヤル目盛りを上げてご使用ください。

4 キャスト時の注意

- 究極のスプールレスポンスを実現するために、小径BB（MBS：マイクロボールベアリングシステム）を採用しており、キャスト時に若干のノイズが生じることがあります。実使用上の問題はありません。あらかじめご了承ください。
- 周囲の安全を確認の上、キャストしたいルアーや仕掛けをサイドキャストで軽く（スムーズな入力で）投げてください。
※PEラインキャストのコツは取扱説明書を参照ください。

⚠ 注意

- スプールレスポンスが良すぎるため、想像よりも早くルアーが飛びだしますので周囲に十分注意してください。
- 硬いロッドで鋭いスナップキャストをするとスプールが急速に立ち上がってバックラッシュしやすくなります。
- これを抑えるためにブレーキを強くしすぎると、リールのポテンシャルを発揮できなくなります。

5 偏り巻糸状態の注意

- 下記図のように、左右いずれかに高負荷を掛け続けた状態でラインを巻き取り続けると、スプール2段目に乗り上げてラインが巻かれる可能性があります。
- 偏りが発生した場合は、必ずラインを引き出し、巻糸状態を整えてからキャスト動作へ移ってください。

